



五感を使って 天気予報！

風や雲、生物の様子を観察して、天気を予測する言い伝えがたくさんあります。当たらないこともあります、自分で確率を検証してみたり、地域ならではの言い伝えを調べたりして、天気の観察を楽しんでみませんか。



いわつきひであき
岩槻秀明

自然科学系ライター
気象予報士

経験から培われた観天望気

今は、いつでも最新の天気予報にアプローチできます。天気予報の精度も日々向上し、翌日の天気予報であれば、適中率（降水の有無）は約85%と、非常に信頼できるものになりました。

今のような天気予報のなかった時代は、観天望気（かんてんぼうき）と言って、身の回りの変化から天気を判断してきました。海や山での作業は、荒天（こうてん）に遭うと命取りになります。農作業も天気の影響を強く受けます。そのため、空模様や風の変化など、直接天気にかかわるような現象はもちろん、景色や物音、身近な生物の行動、さらには自らの体調までも注意深く観察して、天気を推測する材料にしていました。長年の経験から培われてきた観天望気のノウハウが先人から伝えられており、全国的に言われているものから、地域特有のユニークなものまで、星の数ほど存在します。

観天望気は、当時の人々の経験に基づくため、玉石混淆（ぎよくせきごう）です。科学的に説明ができ適中率が高いものがある一方で、科学的根拠に乏しく不確かなものも多く見受けられます。「太陽（たいやう）がかさをかぶると雨」「飛行機雲（ひこうきぐも）がすぐに消えると晴れ」は前者「モ

ズが木の枝の高いところに虫を刺す年は雪が深い」「トンボが多く飛ばれば暴風（ばうふう）」は後者です。

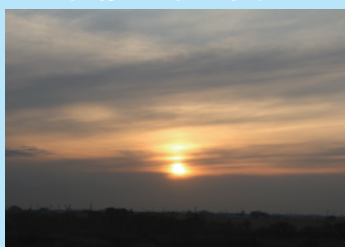
また、その地域内に限れば非常に高い確率で当たるといった、地域性の強いものも存在します。山と雲の関係、風の変化に関するものなどは、その傾向が強く現れています。

それから全国的なものでも、現象と天気の関係に、細かく条件がついている場合もあります。例えば「夕焼けは晴れ」の場合は、西の空に雲がなく、夕日（ゆじ）がよく見える状態を指します。また、夕焼けに染まるのは夕日の周辺だけで、色も黄橙色（おうとうしき）で鮮やかすぎず、日没とともに速やかに色が消えていく場合に限ります。空全体が鮮やかな色に染まる夕焼け、黒雲（くろぐも）の混じったどす黒い夕焼け、血のように真っ赤な夕焼けなどは、むしろ荒天の前ぶれとして警戒されています。

野外活動に役立てよう

最新の科学技術を駆使した天気予報と、昔の人々の知恵の結集である観天望気、両者をうまく組み合わせることで、天気判断はより正確なものとなり、気象災害から身を守る手段としても大いに役立ちます。夏は晴れていても、急に積乱雲（せきらんぐも）が発達し

Q クイズ このあとの天気は？



夕方、西の方角をのぞむ

て、激しい雷雨（ひょうりゅう）となることもあり、ときに、突風（つぷふう）や雹（ひょう）などの危険な現象を伴います。もし、急に冷たい風が吹きはじめた、不気味な黒雲（くろぐも）が出てきた、積乱雲（せきらんぐも）の下部にできた土手（どて）のような雲の帯（アーチ雲）が近づいてきた、遠雷（とんらい）が聞こえるなどの兆候（しやうこう）が現れたら、すぐに安全な建物の中へ避難（ひなん）しましょう。



アーチ雲

観天望気いろいろ

すぐに雨が降りそう!



朝虹 早朝の西の空に発生する虹を見たら、西の方角のわりと近い場所で既に雨が降っています。激しい雷雨の前兆のことも多く、「朝虹に川越すな」という言葉もあります。反対に夕方、東の空にできる虹を見たときは、翌日の晴天率が80%以上と言われます。

におい 雨が降る直前になると、独特のにおいが漂います。このにおいをペトリコールと言います。

音 低気圧や温暖前線の接近で上空に暖気が流れ込むと、車や鐘など遠くの物音が良く聞こえるようになります。空気の下層が冷たく、上の層が暖かいとき、上空に向かった音の伝わる向きが屈折して水平方向へと曲がるためです。

病 雨天時は気圧などの変動により、人によって頭痛や関節痛、腰痛などの不調を感じることがあります（気象病）。

天気は下り坂



笠雲 山の頂に笠をかぶせたような雲を笠雲と言います。湿った気流が山を乗り越えたときに発生し、雨の可能性大です。「○○山に雲がかかると雨」という言葉は全国に存在します。



太陽や月のかさ 低気圧接近時に、先行して現れる雲のひとつが巻層雲（うす雲）です。巻層雲は薄いベール状の雲で氷の結晶でできています。氷の結晶は、太陽や月の光を屈折させ「かさ」をつくります。

赤い月 地平線近くの月は赤く見えることがあります。特に空気中に水蒸気やちりが多いと濃い赤色になります。



飛行機雲が目立つ 飛行機雲はエンジンから出た排気中の水分が冷やされてできるものと、翼の後ろの気圧が下がって気温が下がることで空気中の水分が冷やされてできるものがあります。上空の湿度が高くなると、飛行機雲はいつまでも消えずに残り、幅も広がって目立つようになります。



巻雲（すじ雲）、巻積雲（うろこ雲） すじ雲やうろこ雲は上空の高い所にできます（写真はすじ雲）。低気圧の一番外側に発生し、低気圧接近時に先行して現れることが多い雲です。ちなみにうろこ雲に似たひつじ雲は、うろこ雲より低い所にでき、低気圧がさらに近づいているときにできやすい雲です。



雨の予兆とされる現象がいくつも現れるような場合は雨の確率が高くなります。

強風



レンズ雲 アーモンドやレンズの断面のような形の雲をレンズ雲と言います。上空の風が強い時に発生しやすい雲です。

星のまたたき 強風時は空気の密度のムラが大きくなり、夜空の星が普段よりもキラキラまたたいて見えます。

日本自然保護協会会員募集中!

お問い合わせはTEL: 03-3553-4101 Eメール: nature@nacsj.or.jp
このページは、筆者の方に教育用のコピー配布をご了解いただいております（商用利用不可）。<http://www.nacsj.or.jp/katsudo/kansatsu/> からPDFファイルがダウンロードできます。自然観察会などでご利用ください。

EPSON
EXCEED YOUR VISION

本コーナーは、エプソン純正カートリッジ引取回収サービスを利用されたお客様のポイント寄付によるご支援をいただいております。